

第6回中野区子ども・子育て会議（第3期） 議事録

【日時】

平成30年7月20日（金） 18時30分～20時30分

【場所】

区役所 5階 教育委員会室

【出席者】

（1）出席委員 13名

寺田会長、和泉副会長、新開委員、小山委員、谷崎委員、角田委員

鯉沼委員、藤田委員、岡見委員、遠藤委員、長田委員、中村委員、山本委員

（2）事務局 13名

子ども教育部長

子ども教育部副参事 6名

地域支えあい推進室副参事 3名

子ども教育経営分野企画財政担当 3名

【会議次第】

（1）開会

（2）議題

①新規開設予定の認可保育所における利用定員

②中野区子ども・子育て支援事業計画の改定に向けた意見交換

③中野区子ども・子育てアンケート調査票（案）

（3）その他

（4）閉会

事務局（子ども教育経営担当）

皆さん、こんばんは。お時間になりましたので、始めさせていただきたいと思います。会議の開催に先立ちまして、ご報告させていただきます。本日は、関委員からご欠席の連絡をいただいております。13名の委員の皆様にご出席をいただいております。中野区子ども・子育て会議条例第5条に基づき、会議は有効に成立しております。

それでは、会議の進行を会長にお願いいたします。

寺田会長

皆様、こんばんは。それでは、これより第3期第6回中野区子ども・子育て会議を開催いたします。

皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただきまして、まことにありがとうございます。本日の報告、議題はその他を含め4件となっております。

早速ですが、議題1「新規開設予定の認可保育園における利用定員」について事務局より説明をお願いいたします。

《資料1 について説明》

寺田会長

ありがとうございました。ただいまの議題について、ご意見・ご質問などございますか。谷崎委員、お願いします。

谷崎委員

前回のときに質問させていただいたのですが、この「キッズガーデン新中野駅前」というところが、既にある保育園と同じビルに入ると思うのですけれど、詳細はわかりませんが、避難経路などはきちんと確保されているのでしょうか。

事務局（幼児施設整備担当）

避難経路等につきましては、認可基準に合致したものとなっております。ですので、今回、選定する予定でございますけれども、ただ、事業者募集で、内容を受けまして、こちらから、改善していただきたい点を要望しているところでございます。例えばですけれども、送迎時間帯には混雑が予想されますので、混雑緩和の適切な対応についてこういったことができるのか、きちんと示していただきたいということでもありますとか、それから、どこか外へ遊びに行く際、エレベーターを使うときも、もう一方の事業者とかち合わない

ような形での協議を行うようにということでもありますとか、それからあとは、今おっしゃられた避難経路のことですね。避難訓練を協力してやるようにですとか、とにかくきちんと協議をして、理解を得ながら進めるようにということで、今、要望しているところでございます。

谷崎委員

それは当事者同士で話し合いをしてくださいということで、中野区さんは間に入って取りまとめたりするということはないのでしょうか。

事務局（幼児施設整備担当）

他方の保育事業者から、保護者が不安に思っているというような声も聞いておりますので、両者の協議がきちんと整うよう区としてもさせていただきたいと思っております。

寺田会長

谷崎委員、お願いします。

谷崎委員

ありがとうございました。

もう一つ、たくさんの保育園がまた開設されるということですが、ニーズのある場所につくれないということがあるのかもしれないのですけれど、沼袋あたりなど、今あるところでも定員に空きがあるところもあるわけです。前回のときに、事業者が決めた場所に対して、基準が合っていれば、そこでなくてもというようなことは中野区としては言わないとおっしゃったと思うのですけれど、定員割れの保育所のそばに、また新しい園ができるというのは、どのようなお考えでされるのかなと思います。

事務局（幼児施設整備担当）

確かに事業者からの応募ということも一つあるかと思えますけれども、この沼袋につきましては、昨年度の待機児童緊急対策本部で設置した、2年間でやっている保育施設からの連携を考えなくてはいけないのが一つありますし、それから、現在は募集要項の中では、中野駅周辺やJR中央線より南側の地域を重点地域として募集しているところでございます。ですので、一定程度、地域的な偏りは多少あるのかなと思っておりますが、ここについても施設のほうは整備していきたいと考えているところです。

寺田会長

よろしいでしょうか。ほかにご質問、ありますでしょうか。藤田委員、お願いします。

藤田委員

1 番のキッズガーデン新中野駅前は、ビルの4階ということで、もちろん園庭はないのかなと思うのですが、いつもこの会議の中で、新設の保育所の開設のときに、必ず話題に上がるのが、園庭の有無かと思うのですね。2 番から6 番までは、住所を見ている限りでは、ビルの中ではなさそうなので、これは園庭ありの園と思ってよいのでしょうか。

あと、先ほどから「キッズガーデン新中野駅前」が入るビルには、既にほかの保育所が入っているということで、恐らく園庭もない中で、子どもたちがどこで遊ぶのかというと、近所の公園や学校等になると思うのです。そのあたりも、二つの園が時間の融通をきかせるとはいえ、難しい状況が生まれてくるのかなと思うのですが、区としては調整を今後されていく予定はあるのでしょうか。

事務局（幼児施設整備担当）

まず園庭ですけれども、今回は全て、代替の園庭ということで、公園の設定になっております。

藤田委員

全てということは、6 園とも園庭なし。

事務局（幼児施設整備担当）

そうですね。公園名も申し上げた方がよろしいでしょうか。

藤田委員

ここで全部読み上げられても、何とも言えないなという感じなのですが…。今までも、この会議の中で園庭の重要性というのは、今日欠席されていますけれども、関委員始め、皆さんがおっしゃられていた中で、軽んじられているというわけではないのでしょうか。園庭をつけた上での開設というのは、やはり難しいものなのでしょうか。

事務局（幼児施設整備担当）

おっしゃるとおり、保育環境を整えるということでは、園庭があることが一番望ましいと私たちも考えております。ただ、中野区の状況を見ますと、園庭を用意して、さらに園の施設を建てるということになりますと、金額的にも厳しいものがあると考えているところでは。

ですので、代替の園庭というところで、大体徒歩5 分ぐらいの範囲内に子どもたちが行ける園庭があるということを条件に決めているというところがございます。

藤田委員

代替の場所として公園を使うというのは、それもこの会議の中でこれまで何度も出た話だと思うのですが、そのたびに何回も、関委員や谷崎委員からも話があるように、園庭のある園であっても公園は利用するし、ほかの園とバッティングしないように調整をすれば、ルールを決めるとかが必要ですね。周りにももちろん既存の保育所がある中で公園を使っていくということは、恐らくルールを決めていかないと、何かしらトラブルに発展しかねないのではないかなと思ってしまっているのですが、そのあたりは同時に進められるようなお考えはあるのでしょうか。

事務局（保育園・幼稚園担当）

ご指摘のとおり、園が増えて、お子さんの数が増えれば、公園でかち合うということも想定としてはございます。双方の園で、時間なり曜日なりというところでいろいろお話し合いをしていただいているところもあるかとは思っているのですが、実態としては、天候ですとかお子さんの体調ですとか、あるいは各園での保育メニューによってもいろいろございますので、この日はどこの園でというようなルールを決めて固めてしまうというのは、なかなか難しいのかなと思っています。

できるとすると、園庭のある保育所のほうで園庭開放していただくですとか、あと近隣の公園の中でスペースを少し分け合いながら使うといったところの取組をしながら、適切な園外利用というところをお願いしているという状況でございます。

寺田会長

よろしいでしょうか。私も質問させていただきたいのですが、例えば「キッズガーデン 新中野駅前」は、どこの公園を代替として考えていらっしゃるのでしょうか。

事務局（幼児施設整備担当）

杉山公園になっております。同ビル他方の事業者は近くの本郷小学校です。

寺田会長

本郷小学校が校庭を開放するということがある、ということなのですか。

事務局（幼児施設整備担当）

いつもではないのですが、使わせてもらうこともできます。

寺田会長

それは何か契約のようなことをしているのですか。

事務局（幼児施設整備担当）

そうですね。

寺田会長

仲町小学校の跡地とかというのはここからだといひ遠いのでしょうか…少し距離がありますね。本郷小のほうが近いですね。

ここは1階がスーパーで、2階に「マミーズエンジェル」といふ保育施設、3階には24時間のスポーツジムが入って、その上に今度「キッズガーデン新中野駅前」が入るので、よほど上手に話し合いをうまくやっけていただく必要があると思います。近隣の例えば鍋横保育園も杉山公園を利用するでしょうし、本郷小学校でどのように活用させていただけるのかといふのは、スタートするときに少し行政の方も入っけていただいて、スムーズな動きになるようにしていただいたほうがよろしいのかなと思います。よろしくお願ひいたします。

ほかにはいかがでしょうか。2番から6番の園も、それぞれ園庭なしということですね。

鯉沼委員

質問といふより意見としてなのですけども、公園は保育園の方たちだけが利用しているわけではなくて、私たちのように幼稚園に入れるまでは自分で子育てをしているお母さんも、子どもを連れて公園に行きます。最近の公園を見ていると、既に何園もの保育園の方が同じ公園にいて、たまたまその日は集まっけてしまっているといふのがあるのだと思うのですが、集団で子どもたちがワッといると、結構な迫力があります。1人で子どもを連れていくと、多分私も2人目、3人目のときは、あまり動揺しなかったんですけど、1人目の育児のときは、子どものほうも慣れずに、せっかく行っけたのに「今日は帰ろうか」と言っけてみたり、点々と公園を「ここもいっぱいだね、ここもいっぱいだね」みたいな感じで移動したりといふことが既に起きています。

今後もこのペースで、待機児童解消のために保育園をたくさん建てることを優先してしまっけて、公園で遊べばいいとしていくのは…。本当の状況をしっかり見極めながら進めていただいたほうが、全ての人が子育てをしていく中で安心していけるのではないかなと感じています。

寺田会長

本当にごもっともなご意見でございますね。ありがとうございます。

ほかにご意見はありますか。谷崎委員、お願ひします。

谷崎委員

ありがたいことに、とちの木保育園には園庭がありますが、ご存じのように、それほど

広い園庭ではないわけで、全クラスの子どもたちが、そこで毎日遊ぶということは無理な
のです。なので、子どもの状況に合わせて、お散歩に出ているのですが、とちの木保育園
の周りには、保育園があまりないにもかかわらず、結構かち合います。練馬区とも区境で
すから。4、5歳の子どもたちが遊んでいると、1、2歳の子は危ないから違うところへ
行こうかと言っているうちに、ぐるぐる回って帰ってくるということも多いのです。実際、
どの園も苦労しながら、小学校がいいよと言ってくださったり、高校の授業で使っていな
いときはいいよと言ってくださったりして、お借りしたりはするのですが、それでもなか
なか難しい状況にきていて、実態としてどのくらいの公園の利用をされていて、難しい面
がどのくらいあってというのを、公立園も私立園も、きちんと調べていただけるといいな
と思います。あとは地域開放を保育園などでもしているのも、一般の方が来て遊んでい
ただける日というのもつくっていて、宣伝はしているつもりなのですが、何か地域の方
ともうまく交流をしながら、育ち合えればいいなと思っています。

寺田会長

貴重なご意見、ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、ほかに議題もたくさんございますので、議題2「中野区子ども・子育て支援
事業計画の改定に向けた意見交換」に向けていきたいと思います。机上に配付しておりま
すA4、1枚で、右上に「4月17日子ども・子育て会議資料（修正版）」と書いてある資料
をごらんください。

前回より、中野区子ども・子育て支援事業計画の改定に向けた取組として、委員の皆様
からもご発表いただきながら、地域ぐるみで進める子ども・子育て支援について検討して
おりますが、今回は、その2回目となります。まずは全ての人が子育てしやすい環境づく
りというテーマから、子育てにかかわる地域の支援、見守り活動について、遠藤委員より
ご発表をお願いしたいと思います。遠藤委員、どうぞよろしくお願いいたします。

《資料2 について説明》

寺田会長

ありがとうございます。

それでは、これから遠藤委員のご発表を基に意見交換の時間とさせていただきます。ご
感想やご質問など、ありましたら、ぜひ積極的に発言をお願いいたします。

小山委員

中野区の子育てにかかわる地域の方がどのように支援をしているのかというのが見えた発表で、とても勉強になりました。ありがとうございます。

乳幼児一時預かりの記述で、昔ながらに近所の人が近所の子どもを預かっている取組だと思うのですが、実際にどれくらいの利用者がいるのか、ぜひ聞きたいと思いました。

それから、課題の部分ですね。町会、自治会の課題の部分で、日本語を話せない親たちの対応で、非常に苦慮しているとのことですが、これは保育の側面に関してでもすごく注目されているところで、いわゆる多文化共生ですね。お互いの文化を認め合いながら共存していく、生活していくというところで、とても大事な側面になっている部分だと思います。保育の中では言葉もそうだし、例えば矢印でやればどの国も共通だよねとか、そういう取組も各園で工夫しているところが確かにあります。ぜひ中野区のほうでそのようなアイデアを出し、また、みんなで挨拶し合えるような、コミュニケーションを始められるような取組を支援していけると、中野区の良さがまた出てくるのではないかなと思いました。よろしくお願いします。

寺田会長

ほかにご意見、ありますでしょうか。ご質問を先に少しまとめてからお答えいただくような形を取ろうと思うのですが、いかがでしょうか。和泉委員、お願いします。

和泉副会長

ご報告いただいた中で、子ども食堂に取り組まれていると書かれていまして、各地で取り組まれている中で、いろいろ横のつながりとか、外部組織とか、そういうものとの連携というのも、だんだん芽生えてきているような話も伺っているのですが、こちらの取組というのは、同じように子ども食堂に取り組んでいるような組織と連携して行われているかどうか、そういう実態について教えてください。

寺田会長

それでは遠藤委員に、ただいまの和泉委員のご質問と、それから一時預かりの利用者数、ご存じの範囲で結構ですので、お願いいたします。

遠藤委員

一時預かりですが、これはその都度、10組ぐらいずつ預かっています。とにかく1対1のサポートなので、あまりたくさん預かるということとはできないので、10組ほどなのです。

それと、子ども食堂なのですけれども、これはまだ本当に始まったばかりで、始めた方というのは、民生委員の鷺宮地区の会長なのですけれども、横の関係も一生懸命にやっています。しらさぎ桜苑という高齢者施設の館長さんが、「子ども食堂をやるのでしたらぜひ協力したい」と、しらさぎ桜苑もお借りしているので、横の連携は続いていて、これからもいけると思っています。

寺田会長

ありがとうございました。

事務局（子ども教育経営担当）

ちなみに、子ども食堂ですけれど、しらさぎ桜苑というのは社会福祉法人の武蔵野療園さんがやっている施設で、そこにある地域連携室が関わっていらして、社会福祉協議会さんも絡んでいるので、もし補足の情報があれば、長田委員お願いいたします。

長田委員

前回、私のほうから添付資料「こどもほっとネット in なかの」のご提示をさせていただきました。無料の学習塾と、それから子ども食堂です。こういう人たちは、自発的な活動なので、組織立った連携というのは、あまり好まない。しかしネットワークの形成というのは必要性を感じていらっしゃるの、その意図を酌みながら、社協もお手伝いをさせていただいているということでございます。

寺田会長

ありがとうございました。ほかにもう1点ございましたね。小山委員から出ました、多文化共生に対しての、外国籍の方もいろいろな国の方がいらっしゃると思うのですけれども、例えば保育の場合だったら、英語、中国語、フランス語、韓国語など、そういう日常的な保育の中で、困ったことに対するサポートの冊子みたいなものがありますよね。そういうものが、例えば、ごみ出しのルールか、何かなさっているようなことがあったら教えてください。

子ども教育部長

直接の所管ではないのですが、中野区で、スマートフォンのアプリで、ごみ出しに関するアプリを入れています。最初は日本語だけだったのですが、昨年度かなりの言語を入れてまして、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語、タイ語などに対応できています。特にごみ出しルールは、今、発表の中にあつたように、地域で苦労されているところがあるので、環境部のほうでもきちんと啓発をどうしたらいいのかという

ことで、アプリをつくっています。

それから、ごみの集積所についても、何か国語かで張り出したりしているのですけれど、やはりここは地域の方の協力で、ごみ出しルールは徹底していますので、その辺、今後は多言語の啓発グッズというのも充実させていく必要があるのかなと思っています。

寺田会長

ありがとうございました。とても貴重な情報で、私も初めて伺いました。

遠藤委員

中野区で作成されているごみ出しルールのポスターは様々な言語で書かれていて、わかりやすいです。町会では、あちこちに張っています。

寺田会長

困っていらっしゃるというわけではないのですか。

遠藤委員

鷺宮地区は特に15町会あるのですけれども、その中の半分が団地なのですよね。それで、ごみ出しのルールとか、自治会費の集めとかを、本当に一人一人に説明をしています。他の町会より多いのです。今までは一番、ごみ出しルールの周知が大変だったのですけれども、それは一生懸命説明をして、今では大体できるようになっているのですよね。

寺田会長

ありがとうございました。いろいろなところでお話を伺うときに、大人はなかなか響かないのだけれども、わが子から「お父さん、それだめなんじゃないの?」とか「お母さん、それは違うんじゃないの?」と言われて、子どもに言われると「あ、そうか」と気づくことがあるそうです。ここは子ども・子育て会議なので、保育施設や幼稚園、それから小学校などで保護者の方に啓蒙していただくといいのではないかなと思いました。まして団地だったりするとより伝わっていくと思いますし、今の中野区ごみ分別アプリも、ぜひそれぞれの施設で周知いただくことで、より響いていくのかなと思いましたので、ご活用いただきたいと思います。ありがとうございました。

ほかにご質問等はよろしいでしょうか。小山委員、お願いします。

小山委員

交通安全対策について、大人が守らないで困るところで、私の住んでいる場所のことなのですが、私の娘が通っている小学校は、親子参加型の交通安全を土曜日に実施しています。自転車の修理もそのときに受け付けたりしながら、きちんと修繕をして、大事

に使うというような取組をしています。親子で一緒に行くのだけれど、ここで学んだことを共通理解として、親も守らなくてはねという流れもあったりして、私もちょっとずるをしたいという気持ちが出てきてしまったときにも、思いとどまることも多くあったので、親子参加の取組も、今後、視野に入れていただけると、解決の一つになるのかなと思って、つけ加えさせていただきました。

寺田会長

貴重なご意見をありがとうございました。

それでは、資料3をご発表いただきたいと思います。では次に、ユニバーサルデザインの視点から、鯉沼委員よりご発表をお願いいたします。鯉沼委員、どうぞよろしくお願いします。

《資料3 について説明》

寺田会長

ありがとうございました。とても立派なご発表とご意見をいただいたと思うのですけれども、ご質問、ご感想ありましたら積極的にご意見をお願いいたします。

和泉委員、お願いいたします。

和泉副会長

こういったハード面、情報面、ソフト面といった、かなり概念的なところでまとめたいただいて、とても充実した中身だったと思います。それをブレイクダウンといいますか、具体的に中野区でこのハード面、情報面、ソフト面はどんなのだというところに落とし込んでみたときに、やはり少し気になる部分で、皆さん、お気づきの点があるのではないかなと思うのですね。

例えば中野駅というのは、長年ベビーカーが使いにくい駅としてよく知られている駅で、車椅子の方も使いにくい。というようなところが、やはりハード面ではあるわけですね。

私が子育てをしていたころは、娘のおむつがえをしなくてはいけないというときに、なかなか男性がおむつがえできる場所というのが少なくて、苦労したのですが、最近はいろんなところで見かけるようになって、環境の面がかなり進化したなという感想を持っていたりします。

情報面に関しては、インターネットに頼る人たちが、最近の子育て世代、増えてきたのかなと感じます。そういった中の情報発信、中野区のメーリングリストを使ったり、いろいろ情報の提供の仕方は工夫されていますけれども、実際、子育て世代にそれがついてい

っているのかなというところは、よく検証していかななくてはいけないのかなという感想を持ちました。

寺田会長

ほかにご意見はありますでしょうか。谷崎委員、お願いします。

谷崎委員

感想なのですが、鯉沼委員のおっしゃるとおりで、相談しやすい環境づくりというのは、私たちの保育園でも一番の課題だと思っています。本当に情報があふれているので、日々、送迎時、顔を合わせる保護者の方でも、直接お聞きにならないでグーグルで調べて子育てをしてしまうという方もいらっしゃいます。あとは子育て支援室とって、週1回、地域の皆さんに開放している場所でも、非常にさまざまな親子の方がいらっしゃって、気になる親子が増えてきているけれど、なかなか心を開くには時間がかかるというところでは、どのような支援がいいのかなと模索中ではあります。本当におっしゃるとおりのことで、重く気持ちに入りました。ありがとうございます。

寺田会長

ありがとうございました。ほかに、いかがでしょう。小山委員、お願いします。

小山委員

ユニバーサルデザインというところでは、今、とても大事に、恐らく中野区に限らず、どこの自治体に関しても考えているところであり、かなり進んできている真ただ中という状況にあると思います。子育て支援という言葉も大分定着してはいますが、この発表を聞いて改めて思ったのは、やはり「働かない」「働く」というところの線引きで、何か区分をしてしまうような、そういう状況がまだあるのだなということを強く感じました。だからこそ保育施設、幼稚園も一緒ですけれども、こども園もしかり、もっとオープンに活用してもらいながら、その地域に向けた子育ての情報発信をしたり、受けとめてあげたり、子育ての不安をちょっと解消してあげたりというような、そういうつながりをもっていきながら、地域に根差した施設のあり方を考えることが、中野区のユニバーサルデザインになっていくのだらうなと感じました。

私は保育士をやっていたので、つい保育園からの発信を考えてしまいますけれども、やはりおうちで子育てをしている人たちが保育園に来て、働く、働かないというバックグラウンドではなくて、共に同じ地域の子どもが育っていく場というところの視点を、保育園側も持っていかななくてはいけないし、お母さん方も、そういう気持ちで利用していただけ

るような、そういうまちづくりをしていくステップに入ってきたのかなと感じました。とても貴重な発表をありがとうございました。

寺田会長

ありがとうございました。ほかにご意見はありますでしょうか。

中野駅には二つトイレがあるわけですが、どうなのでしょう。おむつ交換台は付いているのでしょうか。

2007年にゼミ生、こども未来財団の方と一緒に中野区のトイレを調査したことがあるのですが、そのときにはついていなかったのです。中野駅の駅員さんに、ゼミ生が「おむつ交換台がついていないのですけれど、どうしたらつきますか」と伺ったときに、「区民の皆様の意見が多ければ」とおっしゃったのです。「多くなったらつくということなのですか」みたいなやりとりをしていました。やはり区民の声が駅の中も動かせる要素になるのであれば、皆さんで声を上げていくというのも一つなのかなと感じます。

それから、先ほど和泉委員がおっしゃったように、男性も子育てをしている人がトイレに行ったときに、おむつ交換ができないですね。今、マタニティマークというのがありますが、あれが全国に広まったきっかけは、実は厚生労働省の企画官にお子さんができて、お子さんを抱っこバンドで抱えながらトイレに入ったときに、とても不便だったそうなのです。その経験から、ベビーマークを作ったり、男性のトイレにもおむつ交換台を設置したり、チャイルドケアを普及させていこうということで、一気に広まっていったのです。やはり当事者意識、当事者目線というのはとても大事なのではないかと思いますので、ぜひ男性の皆様も一緒に声をかけていただくこと、それがまさに住みやすい環境づくりにつながっていくのかなと鯉沼さんのご発表を聞いて感じました。

それでは、続いて、ワーク・ライフ・バランスについて、藤田委員よりご発表をお願いしたいと思います。藤田委員、どうぞよろしくお願いいたします。

《資料4 について説明》

寺田会長

ありがとうございました。それでは、藤田委員のご発表をもとに意見交換の時間とさせていただきます。ご感想やご質問等ありましたら、ぜひ積極的にご発言をお願いいたします。では、新開委員、お願いします。

新開委員

アンケートがとても説得力があるもので、きちんと集計されていて、とても参考になりました。

最後にご発言があったように、中野区独自の啓蒙のあり方ということが出されておりましたが、現在、中野区のほうで、こういったワーク・ライフ・バランスについての取組というのは、どのようなものがありますでしょうか。ご家庭に届いているのかとか、何かそういうものに触れることがこれまであったかとか、あるいは中野区ではこういうことをやっているということがあれば教えていただきたいと思います。

事務局（子ども教育経営担当）

私は今、区立図書館も担当していますので、まさに図書館のところでの動きで、実は私もここまでしっかり取り組んでいることを承知していなかったところがあるのですが、資料にありますように2011年からワーク・ライフ・バランスについての記事を発行し続け、地道に啓蒙活動を続けています。

しかしながら、なかなかその実態が役所内、また区民の方にも浸透していないというもったいなさが、今回、藤田委員にお調べいただいて認識できましたので、まずは自分の所管のところとして、こういった取組を知っていただくことはしていかなければいけないなと感じています。

他の部署で、男女共同参画に関わるセクションもありますので、そこでも講習会や講演会等はこれまでもやっているとは思いますが、具体的な取組については手持ちがなくすぐにお答えできませんけれども、まだまだ充実すべき点、課題はあるのかなと認識しています。

新開委員

ありがとうございます。在勤、在住の方へのサービスというのが、多分役所でたくさんあると思うのですね。働く場所と生活する場所の両方の人がサービスを受けられるということと言うと、働く場が中野区以外のところで何か用意されるものがあるのと同時に、中野区で働いている方へも同じように行っているという何か具体的なものがありますか。例えば図書館の利用ですとかは、恐らく在勤の方にも開かれていたりしますよね。

子ども教育部長

基本的には、区在住だけでなく、在勤、在学などですね。区民活動センターとか、会議室の利用も可能です。図書館もそうですし、在勤の方、在学の方にも利用できるサービス

というのは多くあります。

新開委員

子育て支援に関する施策の中でというのでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

具体的な施策がぱっと思いつかばないのですが、先ほど藤田委員のご説明の中で、区外に勤務されている方の割合がとても多いということを改めてお聞きして、今後の視点として、仕事をする場、お互いさまに中野区でも働いていただいている方に関して、このワーク・ライフ・バランスという視点で事業展開なり呼びかけができないものか、そこは検討していく必要があるかなと感じているところです。

寺田会長

ありがとうございました。和泉委員、お願いします。

和泉副会長

子育てをする父親という立場では、同じ立場にあって、とても感慨深くお伺いしました。やはりお迎えに行くお父さんが少ないというのは、昔からあって、私のころもありました。私の場合は自由業的な仕事の形態で、職住近接だったものですから、送りも迎えもしていたのですが、4歳、5歳クラスになると、周りの子たちに言われるのですね。「何でお迎え、お父さんなの？」と言われてしまって。あまりにもお母さんたちばかりの中で、なぜお父さんが来るのだろうという疑問を子どもたちが持つという、それが普通でないなとは思ってはいたのですが、それでも。

その背景には、男性、父親が長時間労働をしているというのがあると思うのですね。その理由は何か、もしかしたら、父親たちが自分たちの権利を知らないのかもしれないとも考えられます。企業で雇用されている人たちというのは、3歳未満の子どもを養育していれば、男性、女性にかかわらず、残業免除を請求できるわけですね。しかも就学前のお子さんを抱えていれば、1か月、24時間以内の残業に制限することもできます。

ただ、この制度の選択肢の一つに、時短勤務を請求できるというのがあるのですね。時短勤務を選ばれる方が特に女性に多く、男性、父親の側が、この権利を主張される方がなかなか少ない。また、就学前の子どもを養育されていれば当然、転勤などについても抗弁できるといった権利もきちんと行使されてこなかったのかなというところが一つあります。さらに重ねて言えば、働き方改革の関連法案というのが成立しまして、来年度から実際に施行されますけれども、その中に子育てをしている、していないにかかわらず、残業時間の

規制というのが入ってきます。月100時間までみたいな話がひとり歩きしましたがけれども、実質は年間360時間まで制限になります。1か月あたりに直すと、30時間ぐらいしかできないのですね。法律的には延長保育の時間内で、皆さん、帰ってこられるはずなのですね。子育てしている、していないにかかわらず、ライフのほうに、コミットする生活に変えていくというのが、一つ方向性なのかなとは思っていて、また新しい展開が多分来年以降、あるのではないかなと期待しています。

寺田会長

貴重なご意見、ありがとうございました。藤田委員、お願いします。

藤田委員

今、和泉委員がおっしゃられたことが、まさに私の言いたいことです。まずは啓蒙なのではないでしょうか。制度をいくらつくっても、なかなか運用されないというのは、知らないからという理由が多いと思ったので、こういうまとめ方を今回はさせていただきました。

ただ、制度のほうからできることというのも、あるのかもしれないとも思います。現在保育所が足りないと言っている中で、夢物語にはなってしまうのですが、例えば中野区に勤務している方が、中野区の保育所を利用できますよという状況になれば、中野区は子育てをしやすい区となるかもしれません。あとは、例えば今、保育園に入るには、基本的には点数制で、点数がつかない方というのが、どうしても入所できない状況です。これも夢物語ですが、例えば自分の労働時間を調整しようと思って、フリーランスになった方というのが、私の周りでは多いのですが、実際保育施設を利用しようとすると、企業に勤めている人よりも点数で劣ってしまっていて入れないという状況をいろいろ聞いています。もちろんそれは中野区に限った話ではないのですが。

いろんな働き方を認めるような制度をつくるのがワーク・ライフ・バランスの基礎になるというのも、もちろん一つありだと思います。国でつくっている制度もそうだと思うのですが、ただ、それと同時に、多分考え方をしっかりと、これはもう言葉は適切でないかもしれませんが、植えつけていく。しかしながら私も含めて、きちんと考え方を持っていないと、制度は悪用されるかもしれませんので、啓蒙が大事なのではないのでしょうかというレポートにまとめさせていただきました。

寺田会長

ありがとうございました。それでは小山委員、お願いします。

小山委員

とても興味ある調査で、私も勉強させていただきました。ありがとうございます。

私の場合は、父親が全部送迎をやっていたので、何とも心苦しいのですが、当時は必死だったなと、思い返しました。今、一番下の子どもが小6なので、子育てが一段落している部分ではあるのですが、当時は、はやっている歌も知らなければ、毎日夜泣きに向けて夜9時に寝るとか、そういうような生活をしてきていて、今、その真ただ中の方々がいるのだなという実感を、発表を伺って非常にいたしました。

この調査から、父親の育児に関する立ち位置について、育児参加はごく当たり前になってきたのだけれど、でもやはり仕事が軸に来ていますよね。特に平日に関しては、そこが軸に来てしまうがゆえに、結果的には、一番苦しい時間に母親が、いまだ変わらず育児をしているというのが、ちょっと見られたかなと思います。

それを踏まえると、中野区だけでなく、待機児童に目を向けて、一生懸命保育園を建てていくという、ある種、親が外に出ていくことの支援は、どこの区も全面的にやっているけれども、家に帰る、育児に目を向ける、平日、休日にかかわらず、家に帰って育児に目を向ける、というところの啓蒙が、これからの子育て支援として非常に重要になってくるのではないかなと、このデータを見て非常に思いました。

自治体でできること、中野区でできることはと考えると、やはりワーク・ライフ・バランスという言葉が私たちの生活の中で、どういう位置づけになることがこれからの生活として望ましいのか、というところの打ち出し方ですね。「ワーク・ライフ・バランスとは」を一步進めて、現実的に私たちがワーク・ライフ・バランスを考えたら、こんな生活になるというような、具体的なビジョンが見えた動き方をすると、もっと住民に広がっていくのではないかなと感じました。そういう視点で一步進んだ工夫の啓蒙の仕方が出ると、少しまた変わっていくのではないかなと感じました。ありがとうございました。

寺田会長

ありがとうございました。続いて、学校を拠点とした地域づくりについて、中村委員よりご発表をお願いしたいと思います。中村委員、どうぞよろしくお願いいたします。

《資料5 について説明》

寺田会長

ご発表、ありがとうございました。それでは、中村委員のご発表に、意見交換の時間と

させていただきたいと思います。ご感想やご質問等ありましたら、ぜひ積極的にご発言をお願いいたします。

私からまずは一つ質問させていただきたいのですが、3ページにある、実際に学校支援ボランティアをコーディネートした例として、例えば部活の指導員（卓球・吹奏楽）とありますが、この方たちはどれぐらい指導をするのでしょうか。

中村委員

顧問の先生がいるのですけれども、先生が教えられるわけではない部活の方も顧問になることがあるので、そのフォローとして可能な限り来ていただいたと思います。例えば卓球であれば、週に3回、大会に行くときもコーチとしてついていってくださる方を見つけることができたので、大変ご尽力いただきました。

寺田会長

なるほど、そうなのですね。ありがとうございます。

例えばこういう指導員をやりたいのですけれどもという場合には、この地域の次世代育成委員の方にご連絡をしたら指導員になれるということなののでしょうか。

中村委員

中野区で学校支援ボランティア登録制度というものがあって、そちらに登録していただくと、もし近所で見つからなかった場合には、区のほうで探してくださいます。やりたい方に任せようとする、指導が行き過ぎてしまったりする方もいらっしゃる、その辺は見極めが難しいです。登録された方を、名前を見て「この人知っている？ どう？」と確認をすることもありました。

寺田会長

なるほど。ありがとうございます。そのボランティアの登録を、まずはするという事なのですね。

他にいかがでしょうか。新開委員、お願いします。

新開委員

初めてこの制度を私は知ったので、先ほど、学校との距離のとり方が難しかったというお話がありましたが、この方たちは皆さん、PTA関係というか、お子さんを育てていながらということなのですか。

中村委員

小中学校の現保護者である方が3分の1ぐらい、あとは子育てが終わった方が多いです。

ね。

新開委員

例えば要保護児童対策地域協議会とかという、割と守秘義務が課せられるようなところに、保護者の立場も抱えながら参加するという、中村委員は今回なかったということなのですけれど、そういった不安はなかったですか。

中村委員

例えば、子どものお友達のお母さんと雑談ができなくなりました。言ってはいけないことと、言っていいことの線引きが難しくて、どこまで言ったらいいのか、混乱することもあったので。

新開委員

ありがとうございます。中身もすごく大変なお仕事、責任があるお仕事を任されていて、やりがいもおありになると思うのですが、そういったプレッシャーであるとか、精神的な負担もかなりおありになるのかなと思って、すばらしいと思いつつ、大変そうだなと心から感じたので、そういった負担もご理解いただけたらいいのかなと思いました。

中村委員

その負担が多くて、4期目はおりました。私も仕事をしながら、子育てをしながら、次世代育成委員もやっていたので、それこそワーク・ライフ・バランスではないのですが、崩れてきて、どこに向いたらいいかがわからなくなった時期に、もう限界だなということがあって、4期目はちょっとおろさせてもらいました。

寺田会長

ありがとうございました。ほかによろしいでしょうか。

それでは、中村委員の本音も聞かせていただいたということで、ぜひ今後の中野区の行政のいろいろな視点に生かしていただけたらと感じたところでございます。

それでは、議題3、中野区子ども・子育てアンケート調査票（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

《資料6 について説明》

寺田会長

ありがとうございました。ただいまの議題について、ご意見、ご質問など、ございますか。藤田委員、お願いします。

藤田委員

先ほど私、ワーク・ライフ・バランスのレポートをまとめるに当たっても調査したのですが、そこは区のアンケート調査の項目をお借りしたところも幾つかありまして、その中で、答えづらいというご指摘をいただいたところがあったので、それを参考までに述べさせていただきます。まず、乳幼児調査の間6・間7が就労状況ですが、恐らく保育園に通わせている、先ほどの話で言うとお母さん方に多いのかもしれないですけど、時短勤務はどこに丸をつけたらいいのかと書いてこられた方が何人かいらっしゃいました。確かにそこはケアしていなかったと思います。

現在の状況でという問いになっているので、本来的にはフルタイムで、ただし今は時短勤務というような形になるのかなと思うのですけれども、それをどこまで誘導するのかというところで、一つ参考になればと思います。

もう一つが、私の意見を反映させていただいた問34、フルタイム、パートタイムにかかわらず、お子さんと接する時間はどのぐらいありますかというところです。これは同じようなことを聞いているのですけれども、寝ている時間を入れるのか入れないのかということと言われました。本来的には、寝ている時間を省いて答えてほしかったのですけれども、例えば子どもという時間、24時間と答えてこられた方がいらっしゃって、私のほうのリポートでは全部無効回答にしてしまったのですね。もったいなかったなと思うので、そこは注意書きを加えたほうがいいのかもしいかなと思います。

寺田会長

貴重なご意見をいただきましたよね。ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。山本委員、お願いします。

山本委員

この乳幼児の間21に、子育てひろばの設問がありますが、私の認識としては、子育てひろばは児童館でも子育てひろばをやっていると思ってよろしいでしょうか。児童館でも子育てひろばをしていると、たしか区のホームページには書いてあると思いますが、児童館に来ているお母さんたちは、多分子育てひろばに来ているという感覚はないのではないかなと思うのですね。ぴよぴよひろばとかに行っている方は、子育てひろばに行っていると思うのですけれども、例えば、これを児童館も含めて考えていらっしゃるのだとしたら、例えば児童館とか、例示を入れないといけないと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

保護者の方がどう受けとめているかという、今、貴重なご意見をいただきました。そこ

を意識して工夫をしてみたいと思います。

寺田会長

ありがとうございました。ほかにご意見はないでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

本日、意見をいただいて内容を固めたいと申し上げましたが、実は、この調査につきましては、国が指針を提示して、そこに基づいている部分がございます。国からは、7月中示すとの連絡があるのですが、まだ実は届いていないのですね。事前情報では、前回5年前に行った調査とほぼ変わらないということで聞いてはいるのですが、場合によっては国の指針が若干変わる場合がございます。その場合は、国の指針に沿いまして、若干の修正をする場合がございますので、その点につきましてはご承知おきください。

寺田会長

ありがとうございます。ほかにも、いかがでしょうか。よろしければ、本日の議題は以上で終了となります。

次にその他、何かございますか。藤田委員、お願いします。

藤田委員

本日の議題1の中でも、出たような内容なのですが、実は前回の会議のときにも、この議題に上げるべきかどうか迷ったことがありました。本年度から幾つか民営化をされている園があるかと思うのですが、その保育所に通っていらっしゃるであろう保護者の方が、SNSを通じて、結構痛烈なお声を上げられているようです。私が見るぐらいなので、多分区のほうにも届いているのではないかなと思います。

内容としては、公立園が民営化になるということで、三者協議会を多分何回か経られた上で民営になっているようなのですけれども、その三者協議会でいろいろ取り決めというか、こういうふうにしますという事業者側から語られたことが守られていないというような意見でした。全てSNS上の話なので、今日、私も鵜呑みにしてという話ではないのですけれども、ただ、今日の会議までの間に、幾つか聞いた話では、SNSだけではなくて、区内の保育関係の集会にもやはり出てこられた参加者の中で、民営化によって随分保育環境が悪化しているというようなご意見を寄せる保護者の方がいらっしゃるようなのですね。そういうのを聞いたものですから、この会議には意見として上げておいたほうがいいかなと思いました。

基本的には、私も当事者ではないので、何がどういうふうにまずいのかと細かいことをここで言うつもりもないですし、SNS上では具体的な名前まで出てきているのですけれども、それをこの会議で言うつもりもないです。しかし、多分、その園を運営している事業者や通わせている保護者にとっては、日々現場で進んでいることだと思うので、早くそれが改善されて、いい子育て環境が創出されればいいなと思ってはいるのです。

できたら区へのお願いなのですからけれども、もちろん民営化された後での話なので、事業者任せの部分というのはかなり大きいとは思うのです。基本的には運営は事業者だと思うので、事業者が改善していく話でもあると思うのですけれども、今言ったように、事業者、園側と保護者側って、日々子どもを間に挟んでやりとりがある中で、なかなか大きい視点に立って改善に取り組むというのは難しい部分もあると思うのです。できたらやはり区が間に入って、ファシリテーター、調停者みたいな形で何かそういう話し合いを持つような場を設定したりですとか、そういった意識はできたら、できるだけ区のほうに持ってもらいたいなと思っていました。

民営化が全て、そういう結果になっているわけではないと思うのです。よい保育園として過ごせているというのも聞く話でもあります。しかし、一部でもそういう声が上がってしまうと、それこそまさに今、区長がかわって、子育て先進区と言っていることが全て台なしになるというか、一つだけで多分中野区は子育てがしにくい区ではないかと言われてしまうと思うのです。できるだけ区には、その間に入って調整していくというところをお願いしたいなと思います。議題1でも随分上がっていた話なので、改めてここで区の意見を聞きたいとか、そういうわけではなくて、一応そういうのを見聞きしたので、それをお伝えしたいなと。

実は、ここの会議に出て、毎回新設園の話や民営化の話があって、意見を聴取という形で、私も基本的には賛成している側なので、そういったSNS上の声を見ると非常に心苦しさもあります。何とか改善されればいいなと思っていますので、一応意見として出させていただきます。

寺田会長

貴重なご意見をありがとうございました。いかがでしょうか。

子ども教育部長

確かに1園、民営化に向けて今、準備しているところで、少し保育の状態が悪くなっていたり、区の基準に合わないような状況はあって、事業者と今、調整しているところです。

保育の状況を見極めているところで、今までも三者協、保護者と事業者と区、あわせて何回かお話し合っているところでございますけれども、その改善の状況を保護者の方とともに確認して、少しでも、よりよい保育で事業者がまた信頼回復できるように、区としても間に入って、今、調整しているところです。

藤田委員

ただ、今ここで私が言ったことによって、例えば事業者側に全てを改善しろと言ったところで、なかなか難しい部分もあると思います。やはり事業者も園としては現場が日々あります。そこに対して負荷をかけていけば、今度は子どもに及んでくる話というものもあると思うので、そこだけは注意しながら進めていただければと思っています。

寺田会長

谷崎委員、お願いします。

谷崎委員

実は問題があるということは知っているのですが、SNSというのは、私は見られないものですから、同じ保育園の中でも、知らないところもきっとたくさんあると思います。

ただ、民営化を受けるに当たって、非常に苦勞するのは、どんなに心を込めて保育に当たっても、やはり古巣がいいという意見があるのは当然で、とても現場の方たちは苦勞していると思います。ぜひ区の方も、今、藤田委員がおっしゃったように事業者に改善を押しつけるだけではなくて、何かいい方向に行くように力添えをしていただきたいと思いますのです。

私の法人の保育園も1園、区から民営化を受けたところがあるのですが、本当に7、8年はとても苦勞しました。そして少しずつ理解をしてくださって、それぞれ保育にはよさがありますので、そこで自分の保育園と認めてくださるまでには時間がかかるというのは、本当にどんな人がやってもあるということは、あるのです。

今、区長が変わられて、一時、民営化をもう一度考え直すというお話ですが、やはり本当に慎重にしなければいけないし、子どもが間に入っていることなので、本当に大事に大事にしたいなと思っていますので、ぜひお願いしたいと思います。

寺田会長

貴重なご意見をありがとうございました。いろいろな方法があると思いますし、また、保護者の方、それから事業者の方、役所の方もお入りいただきながら、やはり現場に行っ

て、どんな状況になっているのか把握していただきながら、ご理解いただくというのも一つの方法だと思います。

新設園のところの資料1のところでも、幾つかいろんなことがあったと思うのですが、ぜひ研修等もお声をかけていただくとか、室内遊びの充実というのも、中野区ではいろいろ取り組んできた事例もあると思います。そんな情報もぜひ提供していただきながら、子どもにとってやはり最善は何なのだろうかというところを皆さんで考えていけたらよろしいのかなと感じています。

それでは、事務局より次回の日程について連絡をお願いいたします。

事務局（子ども教育経営担当）

次回の開催日でございますが、9月13日6時からということで予定をしておりますので、ご出席のほどよろしくをお願いいたします。

寺田会長

それでは、これにて第3期第6回中野区子ども・子育て会議を終了いたします。本日もさまざま貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。